

3 福祿寿 ほしのさんとうえいじ 星埜山東栄寺 真言宗豊山派

・所在地 八千代市保品 917 ・TEL 047-488-5476

京成電鉄勝田台駅北口 2 番乗り場から東洋バス阿宗橋行き「東栄寺」下車、または「もえぎ野車庫」行き終点から徒歩 10 分。ぐるっと号 B コース「東栄寺」下車すぐ。



◇八千代市の北東の端、もえぎ野団地と東京成徳大学ができて都市化の進む「保品」は、文和 2 年（1353）の「室町幕府御教書」にも「星名郷」としてその名が確認できる常陸から北総を広く結ぶ水上交通圏「香取の海」の南端の津であり、印旛沼畔の中世からの村であった。

江戸時代は印旛村吉田への渡船場があり、商家も多く醸造業も営まれた河岸であった。

「八千代八福神」の福祿寿を祀る星埜山東栄寺は、その保品の集落中央にある。



◇ 境内の見所

- ①福祿寿像：山門をくぐると、右手すぐに 1989 年の「八千代八福神」設置の際に建立された福祿寿の石像が祀られ、新春は八福神めぐりの参拝客でにぎわう。
- ②本堂：主陣には矜羯羅童子と制多迦童子を両脇に従えた本尊不動明王を祀る。左脇陣の厨子内には秘仏とされてきた頭髪が縄目状の如来立像がある。
- ③薬師堂：本堂の左手前には、2002 年に改修された薬師堂が美しい姿を見せている。かつて萱葺きだった薬師堂は、檀家の浄財により松材で補修、屋根は銅板葺きに改め

られた。また解体の際、屋根材から宝永4年(1707)常州河内郡の大工7人と木挽き4人が建てたとの墨書が見つかり、三百年に亘って「祈り込んで伝えてきた」(住職の落慶法要挨拶)薬師堂であることがわかった。

薬師堂内の華麗な厨子に安置された高さ45cmほどの薬師如来立像は、塗り直しされたきれいな像で、その左右には脇侍の日光・月光菩薩が侍す。両脇陣には、眷属の十二神将が小ぶりながらも1体も欠けることなく堂内に並ぶ姿は実に壮観である。

これらの中世的な力強く躍動感に満ちた脇侍と十二神将像、そして内陣小壁に残された飛天の壁画については、薬師堂正面からガラス戸越しに常時拝観することができる。

④大師堂：千葉寺十善講の54番札所

⑤妙見堂：千葉氏一族の守り神の妙見を祀る

⑥宝篋印塔：福祿寿像の右隣に、「文政十丁亥年(1827)」銘の立派な宝篋印塔がある。

⑦石仏群：妙見堂の後ろには、元禄13年(1700)建立の六地藏像ほか、如意輪観音像を浮彫にした正徳4年(1713)の十九夜塔から、昭和32年(1957)建立の子安観音像まで、女人講など保品のムラの講により建てられた石塔が並ぶ。

⑧イチョウの大樹：境内の本堂裏側には、イチョウの大木が空高く枝を伸ばしている。印旛沼を舟が行き来した時代、保品の津を示すランドマークを彷彿とさせる風景である。

◇正覚院釈迦像の縁起譚に関係する仏像：保品から新川を遡った村上の正覚院には、縄目状の頭髪の清涼寺式釈迦如来像が現存しているが、東栄寺本堂の如来像は、頭髪だけが清涼寺式の縄目状で、永く「薬師如来」と伝承されてきた。

清涼寺式如来像は、中世前期、戒律を重視して仏教界を刷新しようとした西大寺流律宗の叡尊が特に尊崇した仏像である。

正覚院の縁起では「頭は毘首竭摩作の釈迦像」で「本尊は保科村にありしを…入道真円と云う人当寺を建立し、うつして本尊とす…」と書かれ、保品から正覚院へこの釈迦像が来たと伝承されている。

頭のみが毘首竭摩作という縁起譚は土浦市穴塚の般若寺にもあり、また佐倉市印旛沼畔の寺院にも頭部が縄目状の仏像が複数現存している。つくば市小田の三村山など霞ヶ浦周辺には、叡尊の弟子忍性が布教した史跡が多数残っており、これらや正覚院の釈迦像、保品の伝承などから「香取の海」につながる信仰の地域性が感じられる。



↑薬師堂の落慶法要 2002.5.26 ↓薬師堂内部



(● 蕨 由美・羽計一宏・藤村誠枝)